

2025年3月期 第2四半期 決算説明会資料



株式会社アドバネクス

2024年11月27日

本資料は2024年9月30日現在のデータに基づいて作成されております。
本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、予告なしに変更されることがあります。

1. 2025年3月期 第2四半期連結業績概要

2. 2025年3月期 連結業績予想

3. 中期経営計画

3-1. 概要

3-2. 進捗状況

3-3. 注力市場（医療・航空機）

3-4. 構造改革（シガポール・メキシコ工場）

4. トピックス、まとめ

1. 2025年3月期 第2四期連結業績概要

(単位：百万円)

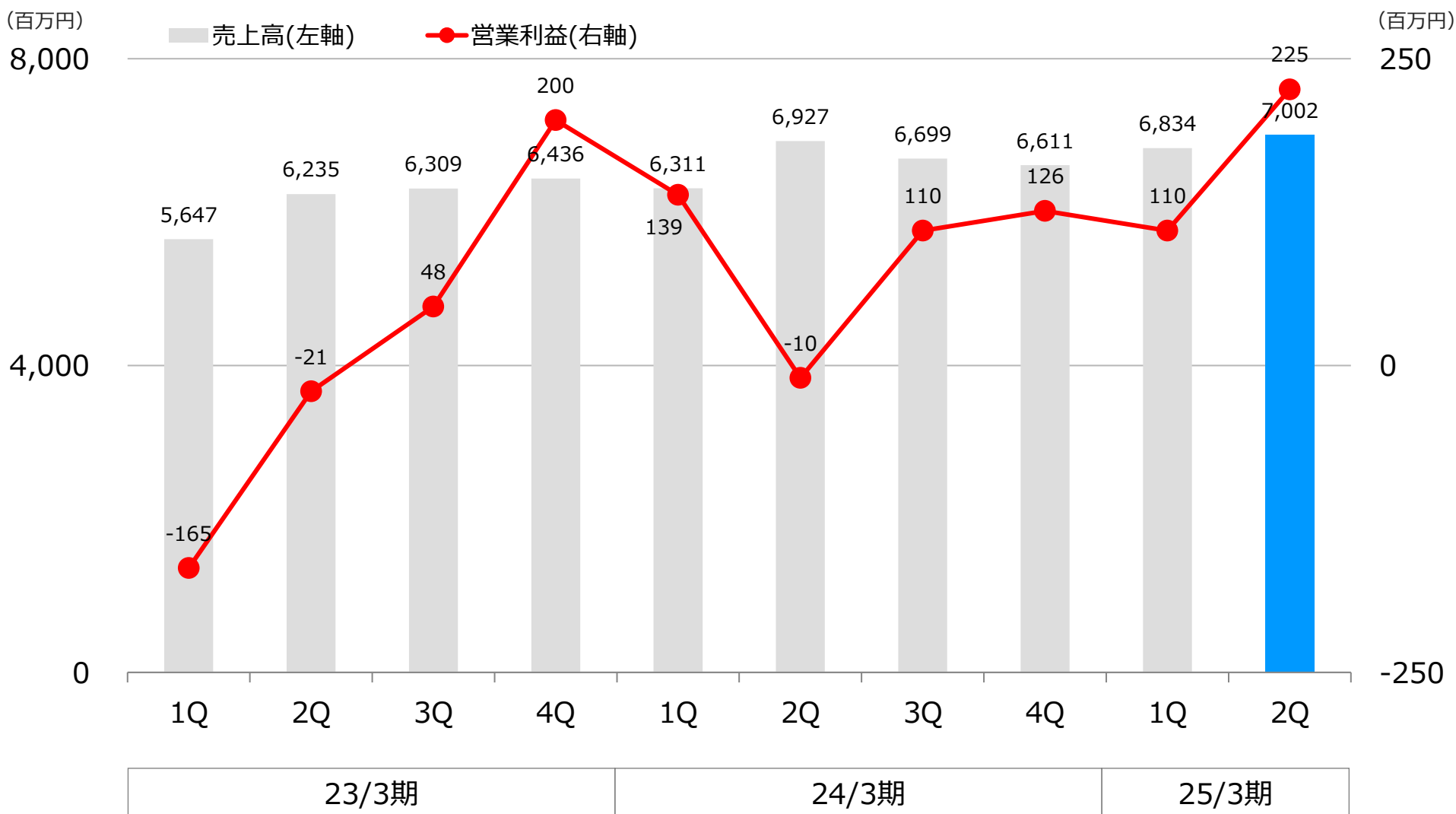
	2024/3期 2Q累計	2025/3期 2Q累計	前期比増減額	前期比増減率
売上高	13,238	13,837	598	4.5%
営業利益	129	336	207	160.3%
営業利益率	1.0%	2.4%	-	-
経常利益	502	△816	△1,319	-
親会社株主に帰属する 中間期純利益	358	△924	△1,282	-

24年3月期2Qレート： 1 US\$ = 141.3円

25年3月期2Qレート： 1 US\$ = 152.3円 2024年3月-2024年9月毎月月末TTMレートの平均

- 売上高は、自動車向けが中国メーカーの台頭や認証不正問題の影響で伸び悩んだものの、OA向けが好調に推移し、また、欧米を中心に医療ビジネスが順調に拡大したことから前年同期比増収。
- 営業利益は、人件費やエネルギーコストの高騰もあったが、値上げ効果や高収益の医療ビジネス拡大によるプロダクトミックスの改善等により前年同期比増益。
- 本業（営業利益まで）が改善した一方、経常利益および中間期純利益は為替の変動に伴う保有資産・負債の評価替えにより、為替**差損**1,055百万円（前年同期は**差益**488百万円）が計上され、それぞれ減益。

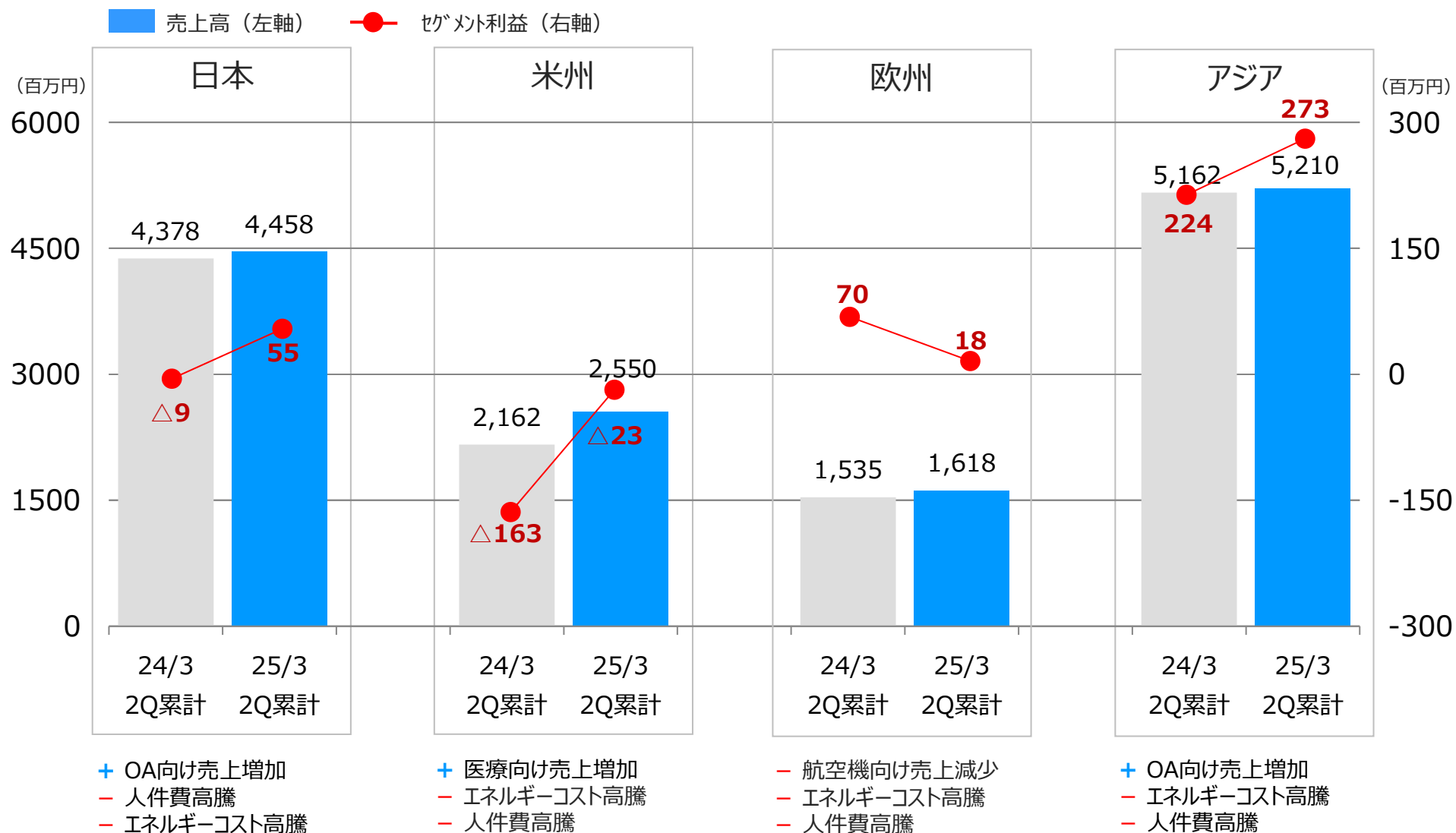
1. 連結売上高・営業利益推移



24年3月期2Qレート： 1 US\$ = 141.3円

25年3月期2Qレート： 1 US\$ = 152.3円 2024年3月-2024年9月毎月月末TTMレート平均

1. 所在地別売上高・セグメント利益



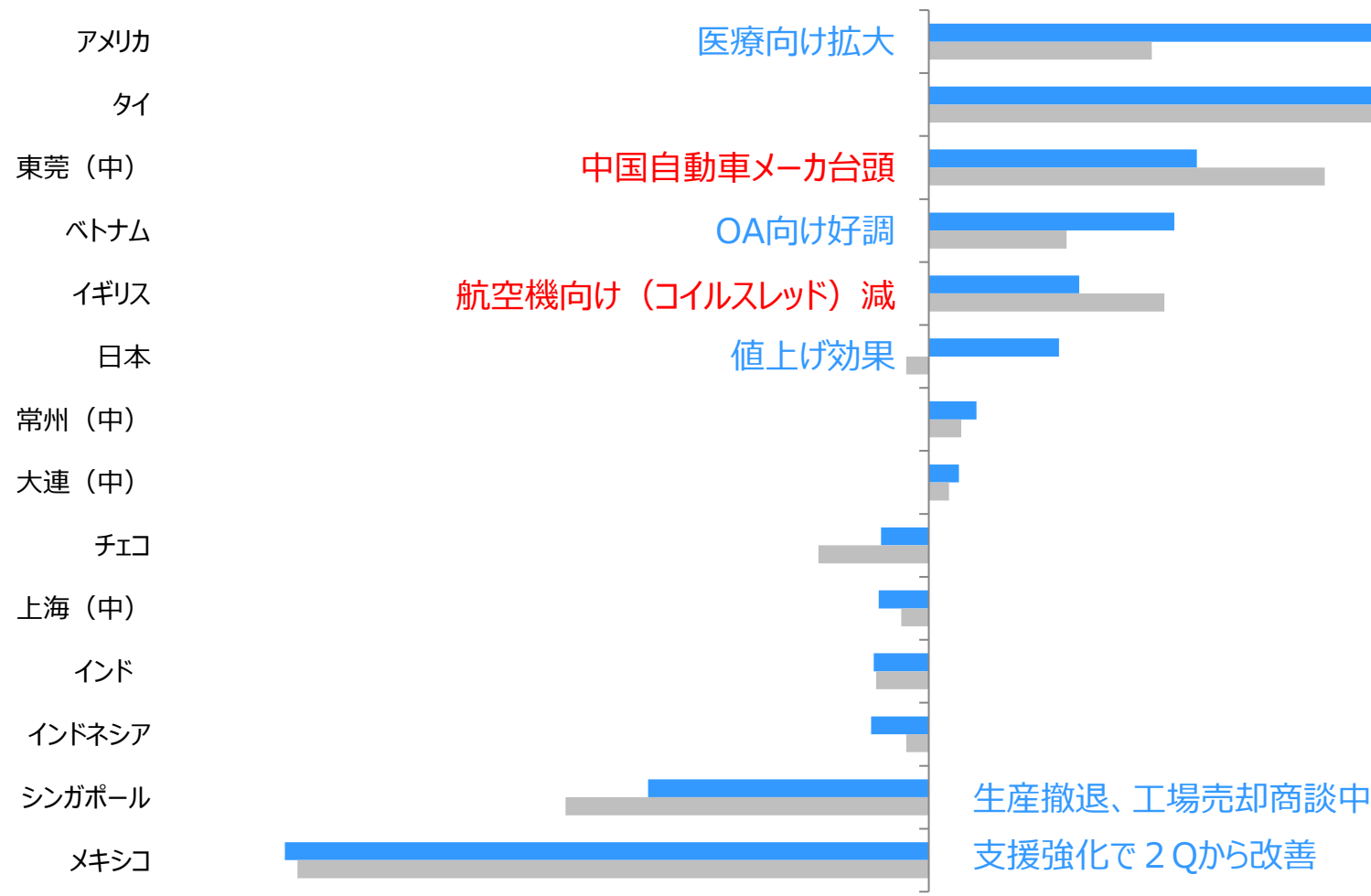
24年3月期2Qレート： 1 US\$ = 141.3円

25年3月期2Qレート： 1 US\$ = 152.3円 2024年3月-2024年9月毎月月末TTMレートの平均

アメリカ、ベトナムが大幅改善の一方、東莞、イギリスがやや苦戦

25/3期中間期
24/3期中間期

— 営業利益比較 +

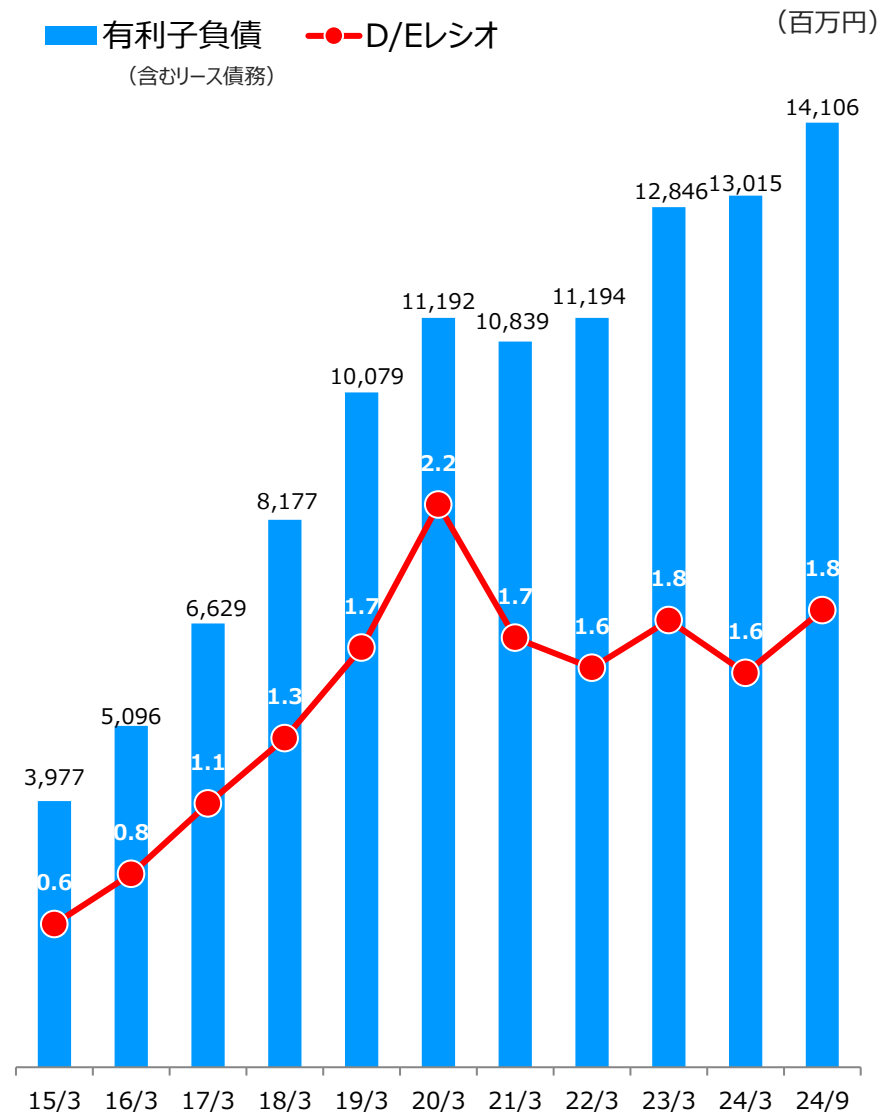
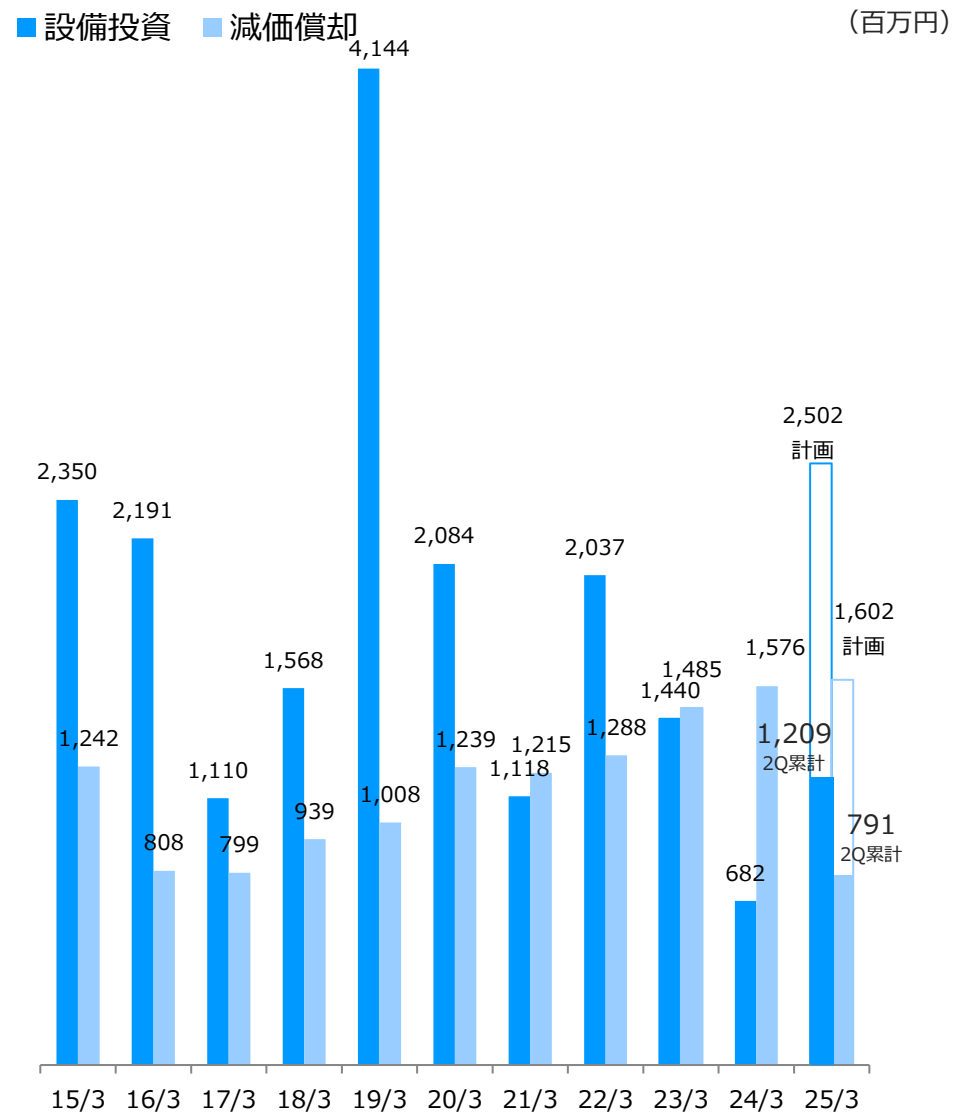


1. 連結市場別売上高

(百万円)

	24/3期 2Q累計	構成比	25/3期 2Q累計	構成比	増減額	増減率
自動車(輸送機器)	7,184	54.3%	7,204	52.1%	20	0.3%
医療機器	1,955	14.8%	2,533	18.3%	578	29.6%
OA機器	1,164	8.8%	1,402	10.1%	238	20.4%
航空機器	811	6.1%	704	5.1%	△107	△13.2%
精密機器	442	3.3%	450	3.3%	8	1.8%
インフラ・住設	347	2.6%	342	2.5%	△5	△1.4%
AV・家電	241	1.8%	265	1.9%	24	10.0%
情報通信機器	179	1.4%	219	1.6%	40	22.3%
その他	916	6.9%	718	5.2%	△198	△21.6%
合計	13,238	100.0%	13,837	100.0%	598	4.5%

1. 設備投資・減価償却・有利子負債



1. 2025年3月期 第2四半期連結業績概要
2. 2025年3月期 連結業績予想
3. 中期経営計画
 - 3-1. 概要
 - 3-2. 進捗状況
 - 3-3. 注力市場（医療・航空機）
 - 3-4. 構造改革（シガポール・メソ工場）
4. トピックス、まとめ

2. 2025年3月期通期業績予想（連結）

期初予想から変更はありません

（百万円）

	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (今回)	前期比増減額	前期比増減率
売上高	26,549	26,000	△549	△2.1%
営業利益	365	300	△65	△17.8%
営業利益率	1.4%	1.2%	-	-
経常利益	832	200	△632	△76.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	268	300	+32	+11.9%

（円）

一株あたり 配当	20	20	±0	-
-------------	----	----	----	---

1. 2025年3月期 第2四半期連結業績概要
2. 2025年3月期 連結業績予想
3. 中期経営計画
 - 3-1. 概要
 - 3-2. 進捗状況
 - 3-3. 注力市場（医療・航空機）
 - 3-4. 構造改革（シガポール・メソ工場）
4. トピックス、まとめ

21/4期-24/3期
Phase1

24/4期-27/3期
中期経営計画 Phase2

27/4期-
Phase3

本格的に飛躍

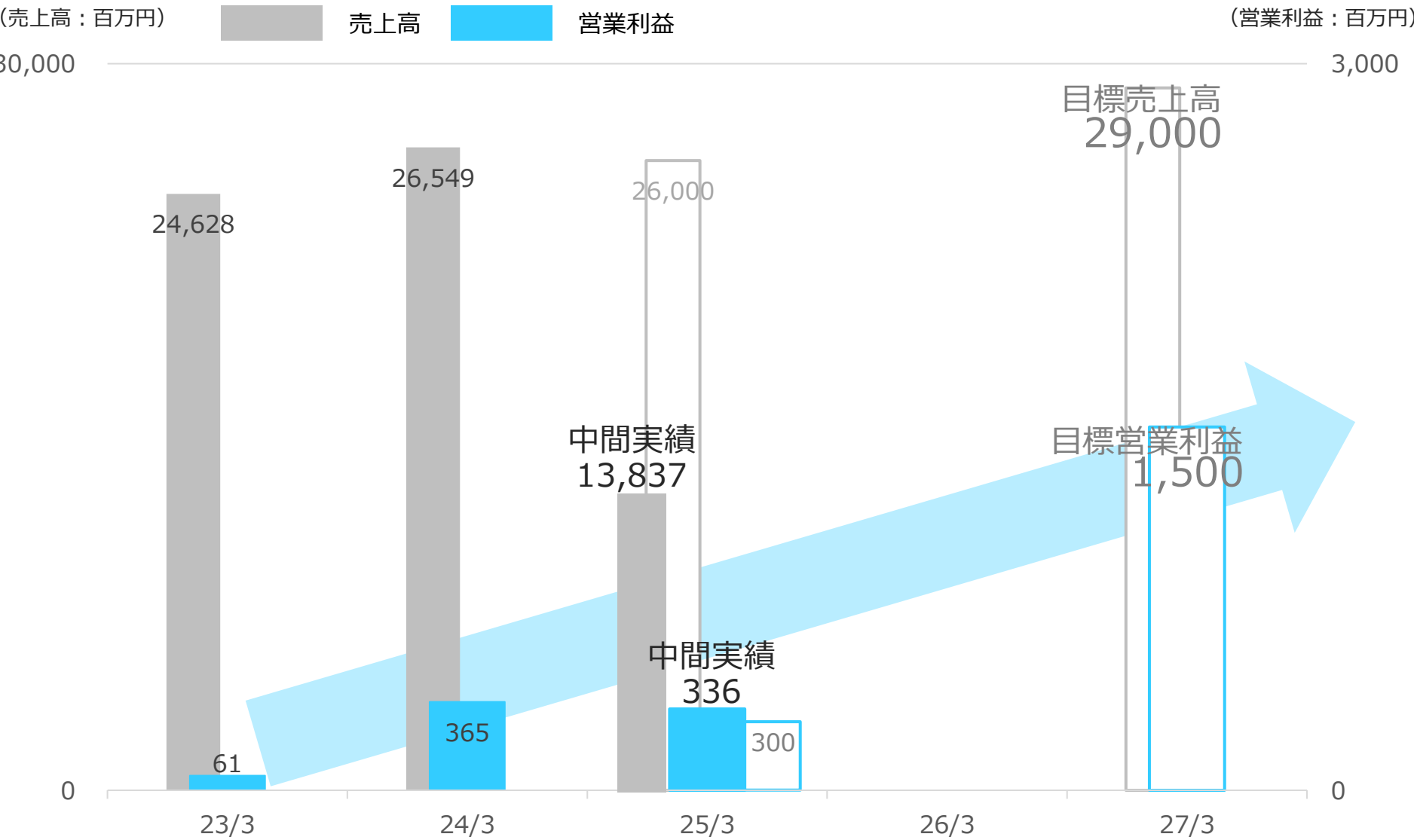
飛躍に向けて手を打つ

- グローバル連携・団結の強化
- 注力市場への経営資源投下
- 構造改革の実行

2027/3期

売上高	29,000
医療売上	6,000
コイルスレッド売上	3,000
営業利益	1,500
有利子負債	9,000以下
自己資本比率	30%以上
ROE	7.0%以上
配当（1株あたり）	50円

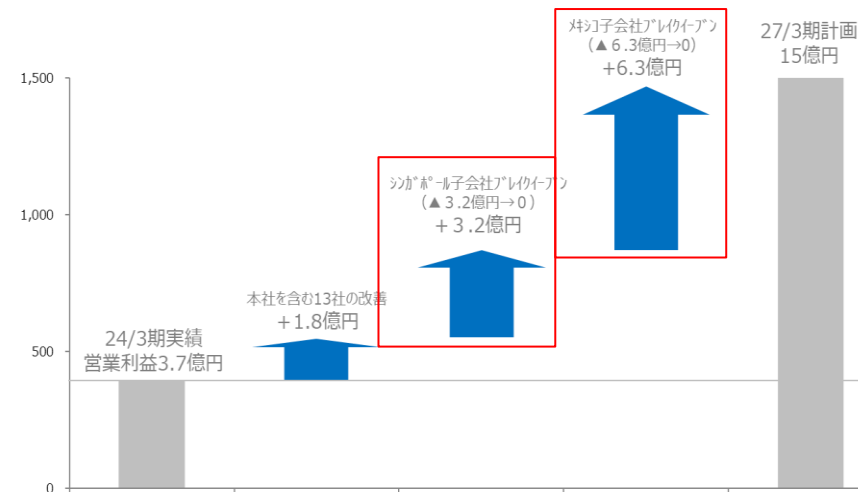
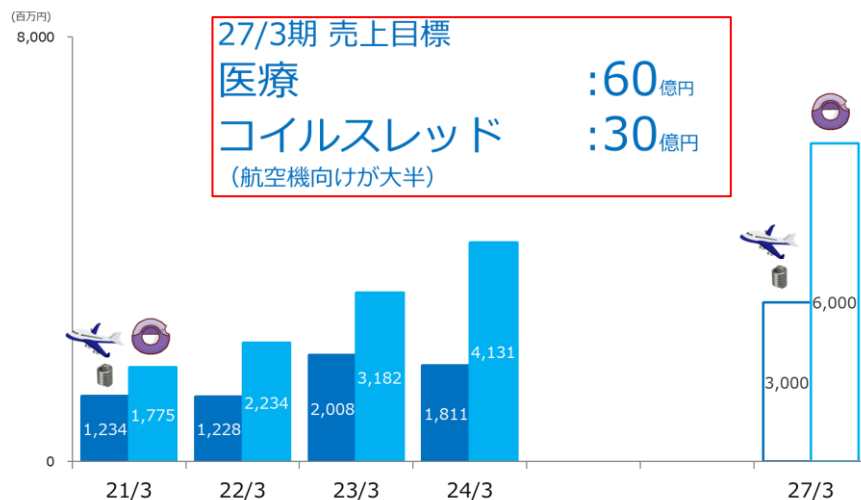
3-2. 中期経営計画：進捗状況



3-2. 中期経営計画：進捗状況

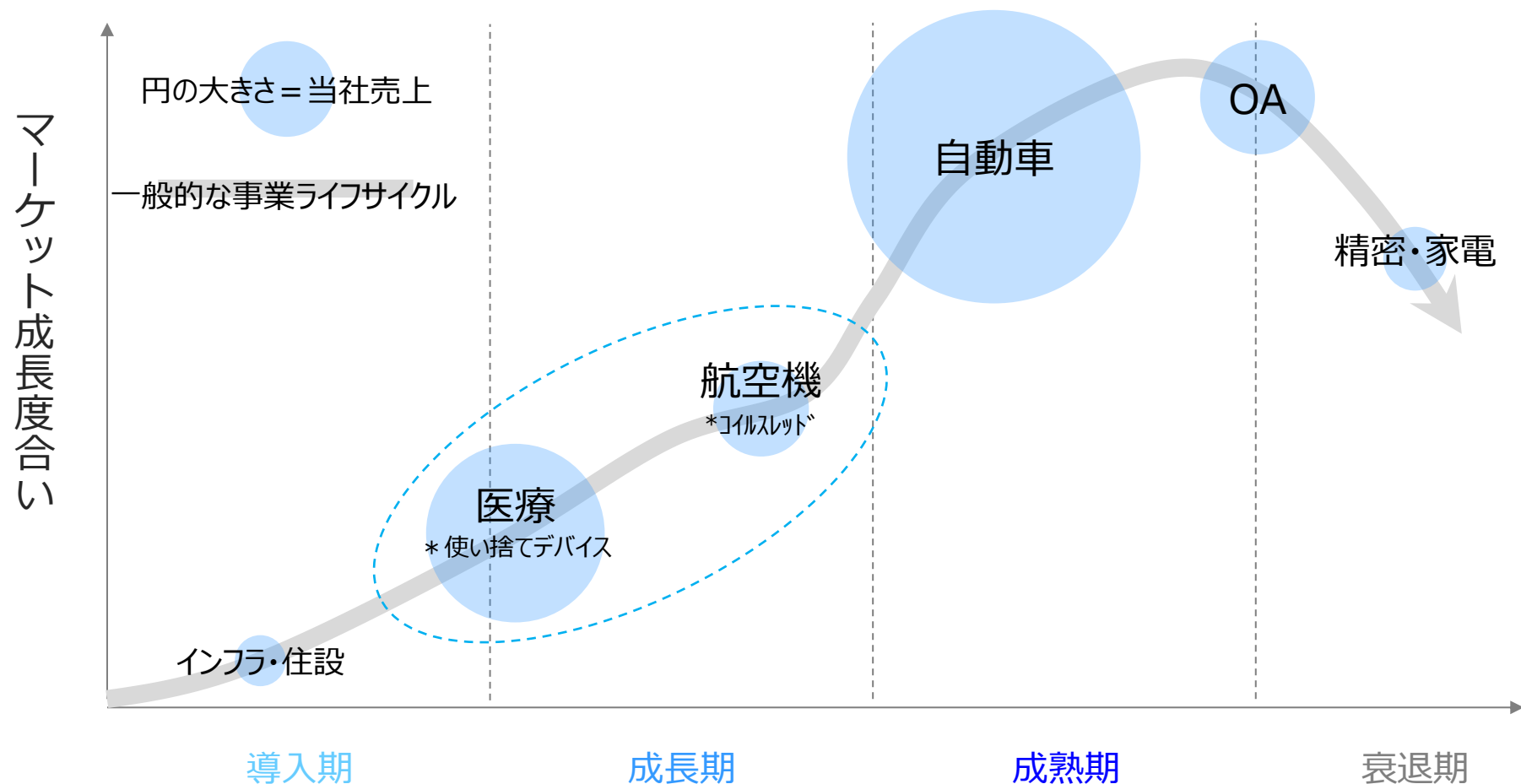
医療好調、コイルスレッドは一時的に足踏み、構造改革の実行は概ね順調

中期経営計画重点テーマ	目標値	進捗評価
医療拡大	売上41億円→60億円	◎
コイルスレッド拡大	売上18億円→30億円	△
シンガポール子会社ブレイクイブ	営利▲3.2億円→±0	○
メキシコ子会社ブレイクイブ	営利▲6.3億円→±0	○



3-3. 中期経営計画：注力市場

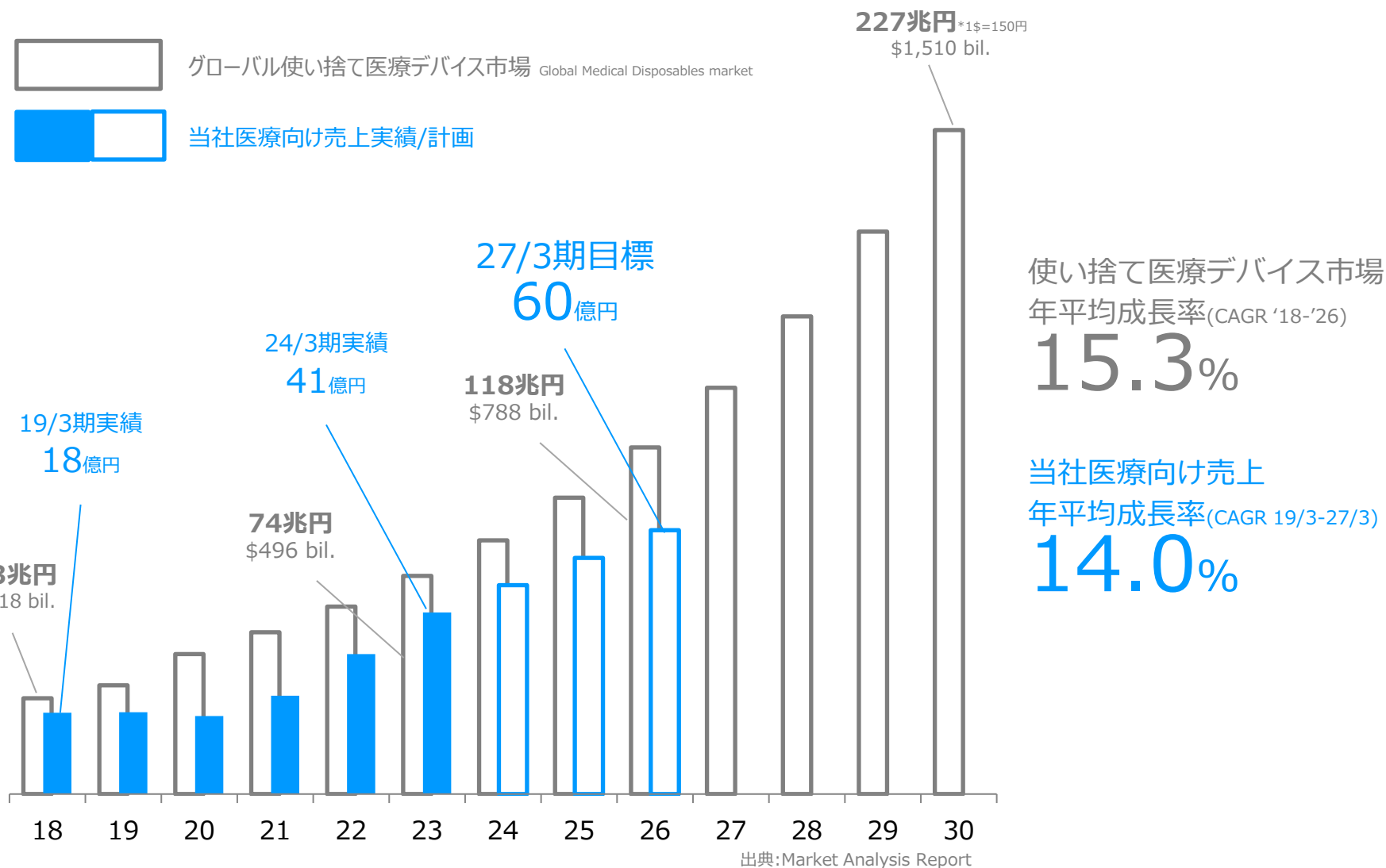
医療と航空機は既に相当な売上規模だが、事業ライフサイクル上*はまだ成長期。
今後も長く当社の成長に寄与する



*あくまでも当社がかかわっている部分。たとえばOA市場はDXソリューション化でまだまだ成長余地はあるが、ばねなどの機構部分は減ってきているなど
“OAにおける当社の関連する部分は衰退期に入っている”という意味。またインフラ・住設は市場自体は成熟期だが当社が供給するゆりみ止分野は導入期

3-3. 医療市場：使い捨てデバイスの成長見通し

使い捨て医療デバイス市場拡大に連動し、当社医療向け売上も拡大



使い捨て医療デバイスは経口薬との差別化から近年急激に需要が拡大している



ドライパウダー吸入器（気管支疾病など）のメリット*1

- 適切な分量を自身で投与できる
- 肺に直接投与することで高い効果を得られる（経口薬は消化酵素や胃酸で効果減）
- 肺以外に作用しない（経口薬は全身に作用し、副作用のリスクがある）
- 衛生的（“乾燥した粉”なので雑菌が繁殖しづらい）



オートインジェクター（糖尿病など）のメリット*1

- 適切な分量を自身で投与できる
- 直接血液に投与することで高い効果を得られる
- 使いやすく投与が楽（週1回など）
- アドヒアランス*2が高く快癒しやすい（毎日朝晩と面倒な経口薬の継続は容易でない）

*1 ネット情報やAI（Copilot）による調査

*2 患者が医師の指示に従ってしっかりと服薬を継続すること。遵守率

3-3. 医療市場：当社が選ばれる理由

メガファーマの要求を満たせる精密ばねメーカーは少なく、競合も限られる

通常のはねメーカーの
評価項目

品質
価格
技術力
納期

メガファーマの
要求項目

グローバル生産体制

経営の継続性

財務力

認証・監査対応力

- 世界に点在するメガファーマ生産拠点それぞれの近隣で生産
- BCP（被災時の代替生産）
- 永続的な供給の担保
- サンプル品納入から量産開始まで5-10年（売上ゼロが数年続く）
- 数々の無償サービス要求への対応
- 増産要請に対する迅速な投資判断
- 認証取得に必要な膨大な書類やデータ提出
- 専門人材、アカデミックな知見

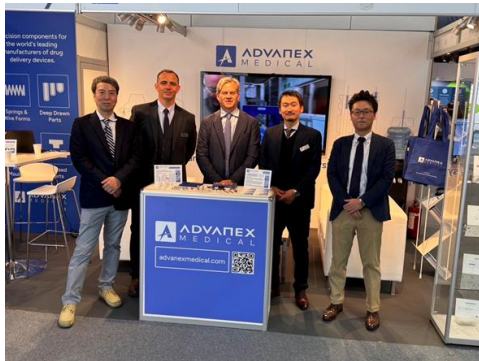


当社生産拠点分布：11か国・20拠点

3-3. 医療市場：売上拡大の取り組み

世界中で開催されている国際医療展示会に出展。
更なる拡大を目指すべくシェア上位のメガファーマにアプローチ

国際医療展示会（CPHI*）出展

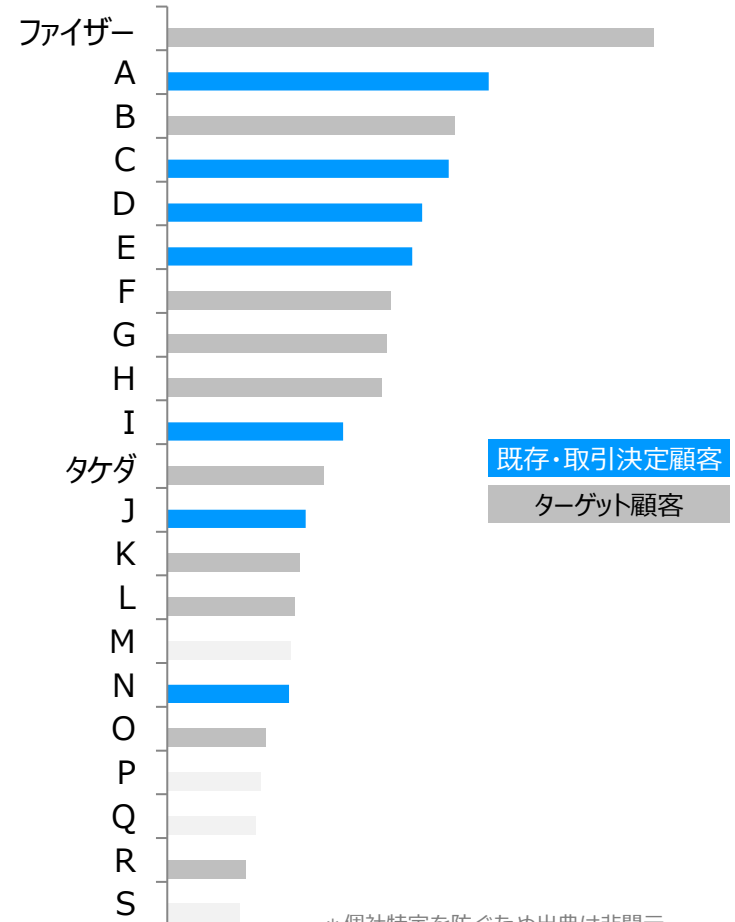


CPHIミラノに出展



CPHI上海に出展

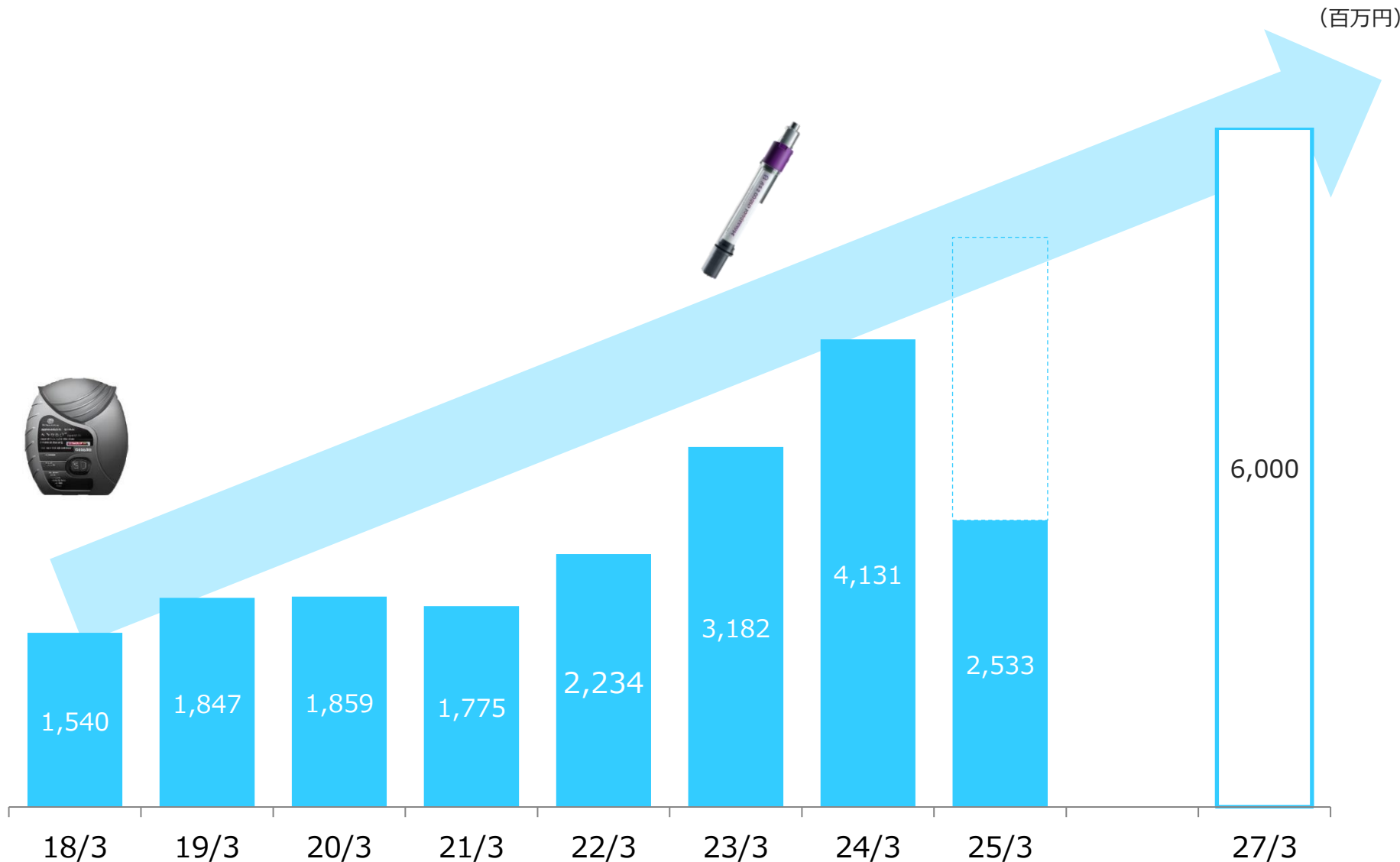
製薬会社売上トップ20



* 個社特定を防ぐため出典は非開示

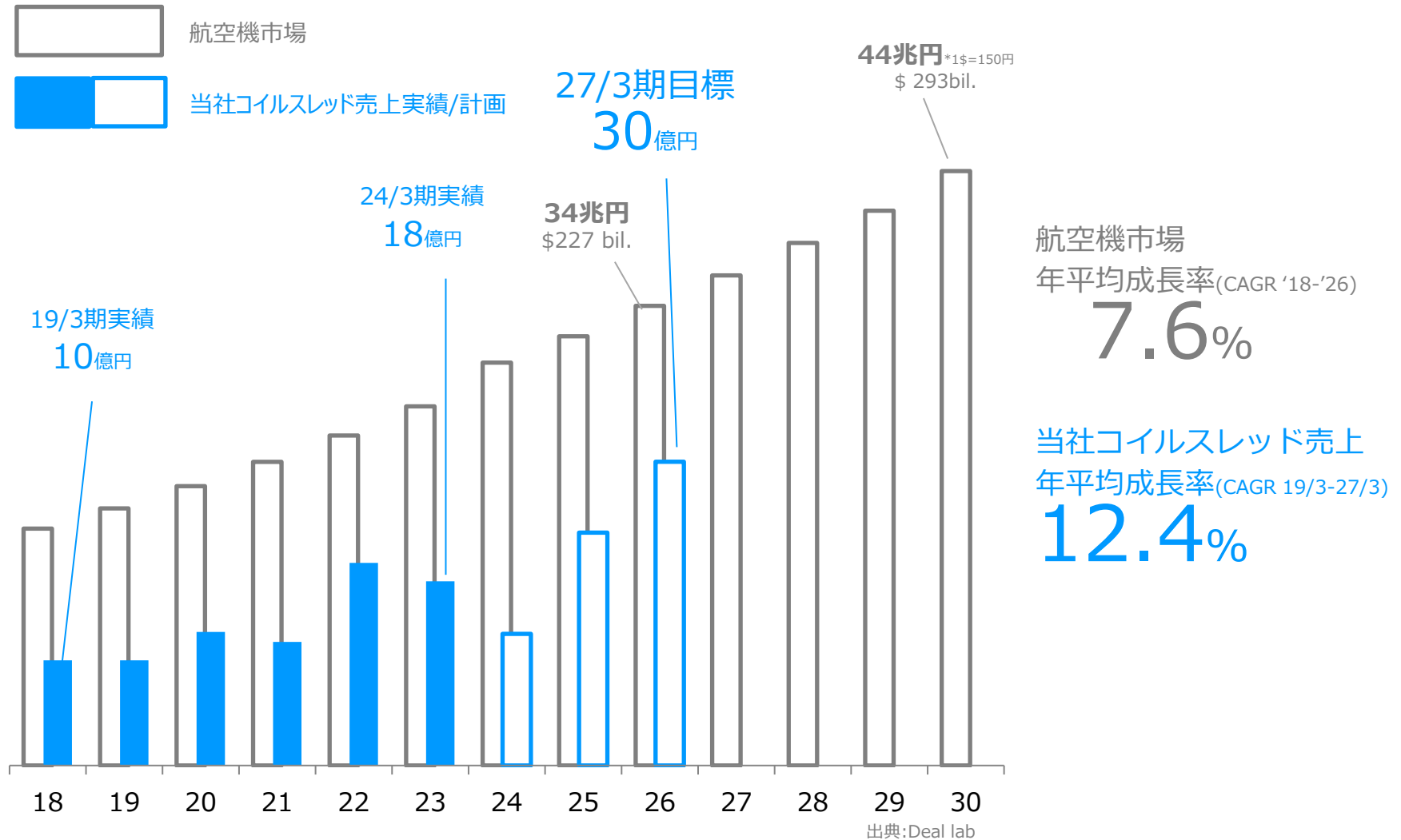
* CPHIは新薬開発や安定供給のサポートおよび製薬業界の活性化を目的とする医薬品開発展。2024年は東京、フィラデルフィア、上海、バンコク、ソウル、ミラノ、デリー、リヤドで開催。

オートインジェクションのヒットで想定を上回る勢い



3-3. 航空機市場（コイルスレッド）：航空機市場成長見通し

販路・シェア拡大により売上拡大を目指す



3-3. 航空機市場（コイルスレッド）：製品概要

コイルスレッドは当社規格品の代表的製品。
“ねじ穴の補強”と“ゆるみ止め”の効果で、主に航空機市場にて使用されている。

コイルスレッドと挿入工具

使用例

主要市場である航空業界の各種需要先



ボルト締め

挿入後

挿入前

コイルスレッドをねじ込んだ
ねじ穴にボルトを締める



部品メーカー向け



メンテナンス（MRO*）向け



機体製造向け（1機あたり10万-30万個）

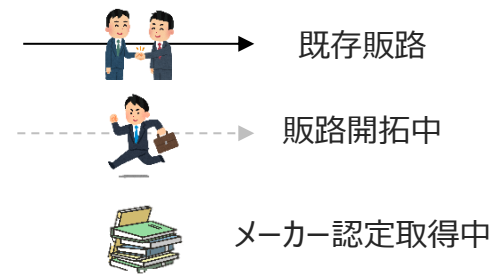
カットサンプル



* MROとはMaintenance Repair Overhaulの略で、航空機を修理メンテナンスする事業・企業のこと

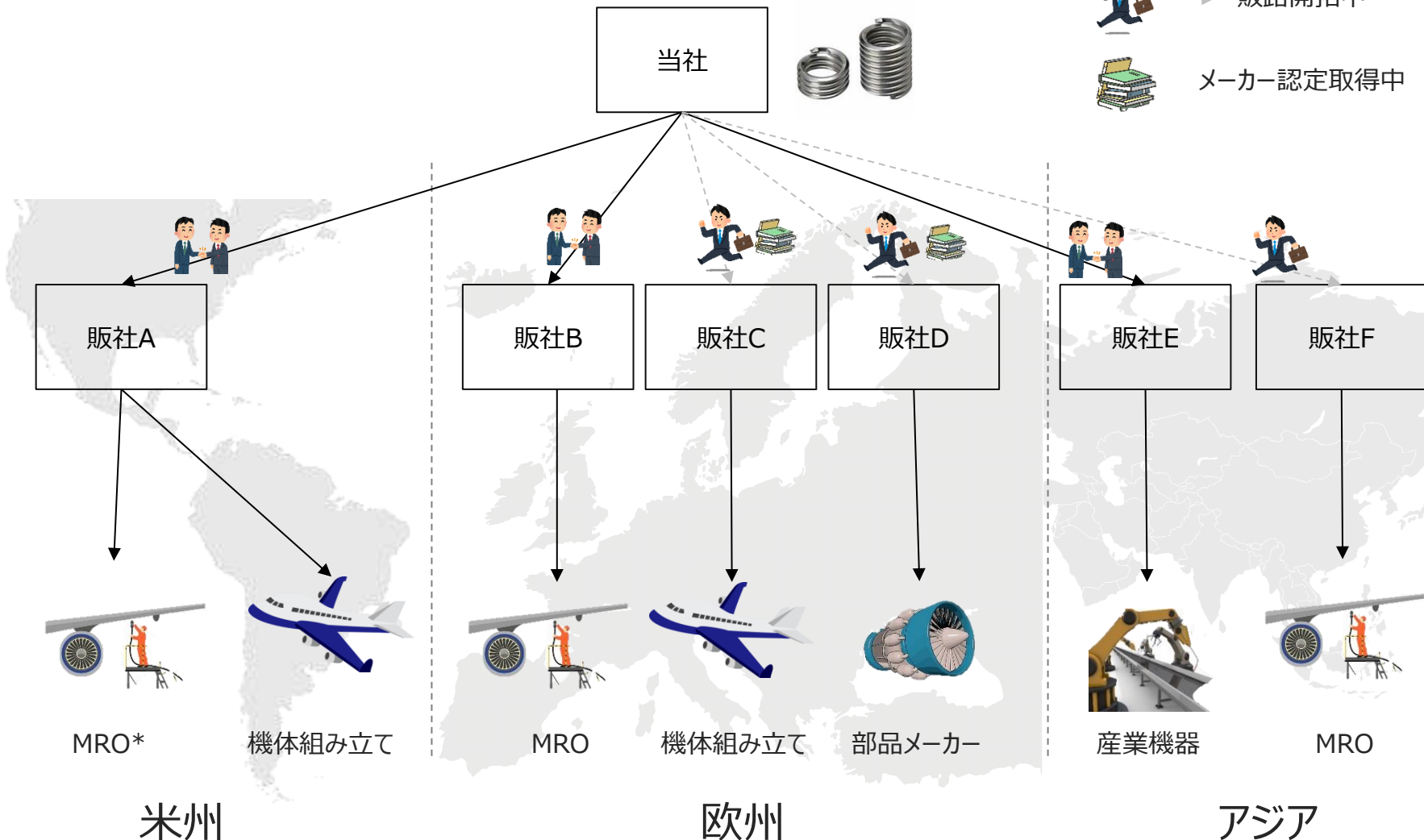
3-3. 航空機市場（コイルスレッド）：販路拡大戦略

エンドユーザーへのパイプを持つ販社にアプローチ。
大口顧客の認定取得には数年かかるが決まれば売上拡大必至



販社

エンドユーザー

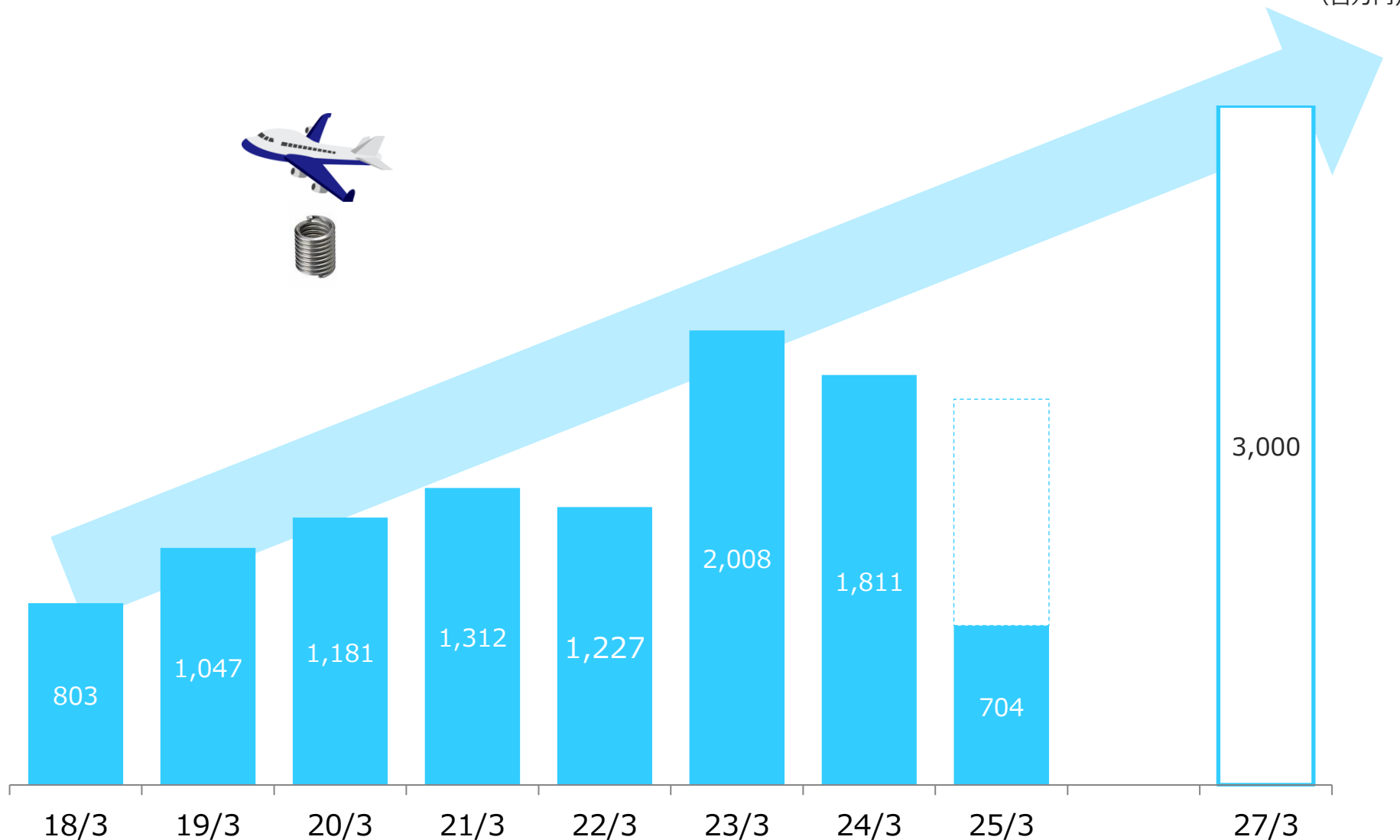


* 上記図は単純化されており、実際のサプライチェーンは階層や同業販社が多数ある
* MROとはMaintenance Repair Overhaulの略で、航空機を修理メンテナンスする事業・企業のこと

3-3. 航空機市場（コイルスレッド）：売上計画

主要メーカーのトラブルで足元伸び悩んでいるが下期以降回復と来期以降の販路拡大を期待

(百万円)



3-4. 構造改革：シンガポール工場

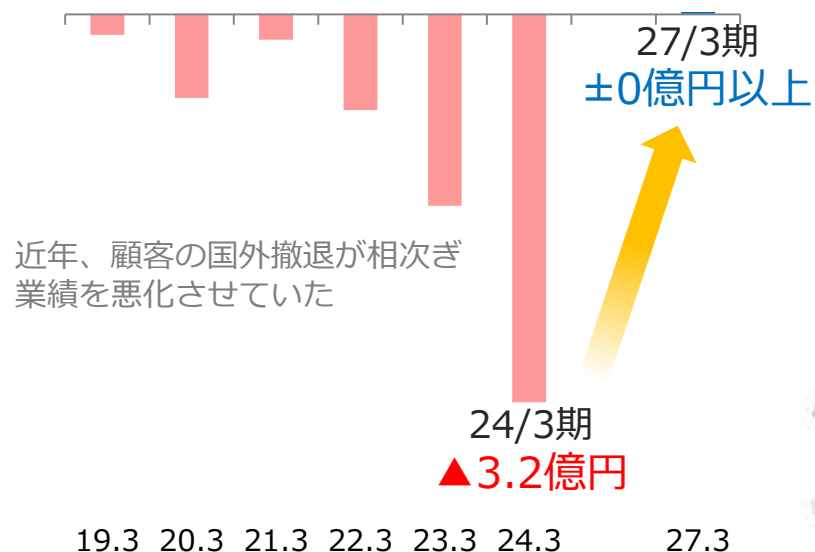
2024年12月までに生産機能を停止し、工場は売却予定



概況

- 製品生産はタイ、ベトナム、インド、インドネシア工場に移管
- 工場建屋は12,000㎡と広い上、好立地。工場売却益も期待
- 工場売却後は営業・技術センターとしての機能を担う

シンガポール工場営業損失推移



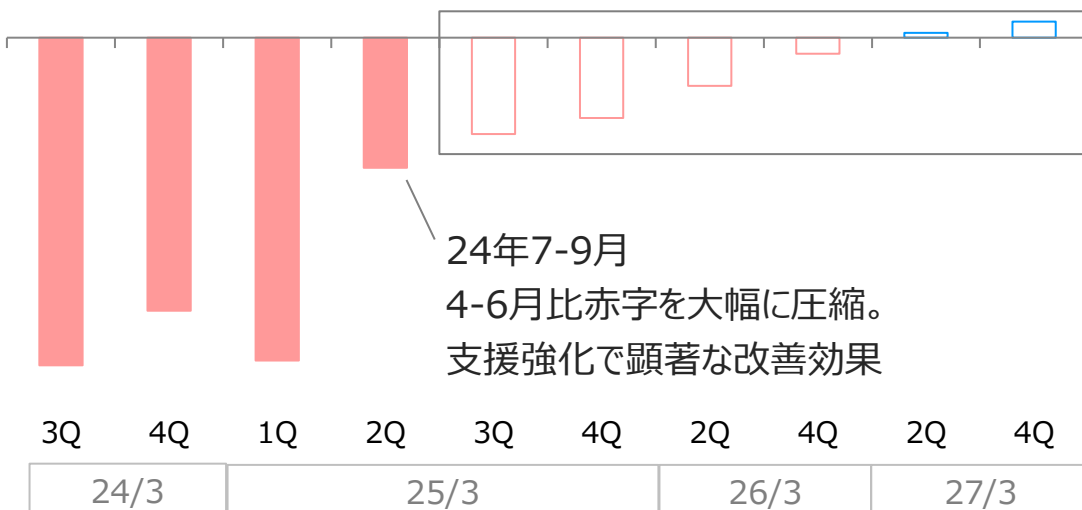
黒字化に向け光明が見えてきた。2026/3期中の単月営業黒字を目指す



概況

- 2Q(7-9月)は1Q比赤字半分以下。派遣増員などの支援強化効果
- ローカル社員とのコミュニケーション活性化で劇的な変化
 - 目標・課題の共有
 - 部門間の連携強化
 - 黒字化達成の機運・意欲醸成、モチベーション向上

メキシコ工場営業利益改善計画



24年7-9月
4-6月比赤字を大幅に圧縮。
支援強化で顕著な改善効果

24年10月～
黒字化に向け取り組みを加速

- 稼働率・工程内不良率改善
- 人員数の適正化（直接・間接）
- 休止していた営業活動再開（売上増）
- ムリ・ムダ・ムラ削減、チームビルディング活動
- 加工スピードアップ・自動化・無人化 etc.

1. 2025年3月期 第2四半期連結業績概要
2. 2025年3月期 連結業績予想
3. 中期経営計画
 - 3-1. 概要
 - 3-2. 進捗状況
 - 3-3. 注力市場（医療・航空機）
 - 3-4. 構造改革（シガポール・メソ工場）
4. トピックス、まとめ

4. トピックス：アメリカ工場

グループトップの利益貢献(2024/4-9実績)とV字回復を実現。さらに長期的な成長が期待される



テネシー州のアメリカ工場
(22年1月カリフォルニアから移転)

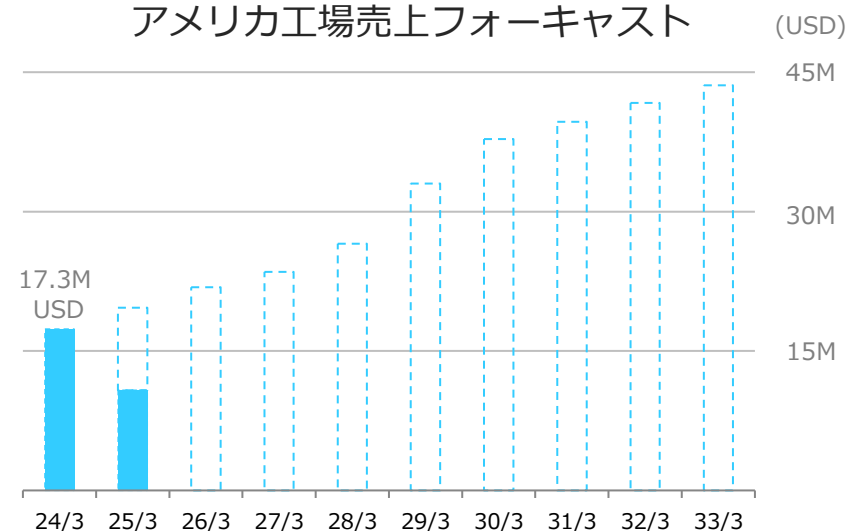


オートインジェクション向けばね

概況

- オートインジェクションがヒットし、急拡大
- 9割以上が医療向け
- 10年先までの確度の高いフォーキャスト
- 早くも工場スペースが足りなくなり、工場棟増築を検討

アメリカ工場売上フォーキャスト



4. トピックス：タイ新工場建設

タイは更なる成長が見込める一方、現有工場は余剰スペースが無くなったことや洪水リスクを抱えていることから2018年に取得済みであったEEC*プロジェクトエリア内の土地に新工場を建設

ADVANCEX
Answer to Comments
22 December 2023

基本情報

- 土地： 21,516m²
- 建屋面積： 9,938m²
- 竣工： 2025年2月予定
- アドレス： ラーン県
(イースタンシーボード工業団地)

理由・目的

- 事業拡大(建屋面積はチョンブリー工場の4倍)
- 有利な立地
 - 政府投資プロジェクトEEC*の恩恵享受
 - 顧客拠点が既に多く、今後も誘致プロジェクトにより更に増える
 - Toyota, BMW, BYD, 中華系EV
 - 自動車部品メーカー etc.
 - 免税等様々な優遇・恩典
 - 法人税・輸出入・投資・R&D etc.
 - 洪水リスクが無い

● アユタヤ工場（継続、一部新工場へ移管）

● チョンブリー工場（閉鎖予定、新工場へ移転）

● 新工場



* EEC（Eastern Economic Corridor、東部経済回廊）とはタイ政府が成長分野のため5年間に1兆5,000億バーツ（約5兆円超）以上の投資を行い、最先端技術の誘致と産業集約エリアの更なる発展を目的とした大型インフラ投資計画

- 過半を占める自動車向けは中国系メーカーの台頭等により直近の売上は伸び悩むも、CASE（繋がる・自動運転・共有・電動）関連の新製品試作や受注は進む
- OAは中国からの回避需要をベトナム・タイ・日本が取り込むなど好調
- インフラ・住設向けの新規ビジネスは契約上開示できないものが多いものの着実に進展
- 新興国の中間層拡大＋温暖化でエアコン向けの新たなビジネスが伸張
- 旧福島工場（2009年撤退）を売却
- 中国戦略（One Operation China Project）はプロアクティブに進めている

- 医療向けは使い捨てデバイスの需要拡大で想定以上の勢い
- 航空機向け（コイルスレッド）は上期こそ足踏みも、下期から徐々に需要回復、加えて販路拡大の見通しあり
- 収益の足を引っ張ってきたメキシコ工場は収益改善、シンガポール工場は工場閉鎖への準備が進んでおり、それぞれブレイクイーブンに向けて前進
- 為替変動の影響軽減に向けた対応も来年度以降に備え進めていく

ADVANCEX

(お問い合わせ先)

株式会社アドバネクス
経営企画室

TEL : 03 - 3822 - 5865

Email : tsutomu_kumaki@advanex.co.jp

URL : <https://www.advanex.co.jp>